

## 2022年度 第2回 町田市立博物館運営委員会 議事録（要旨）

- 1 開催日時：2023年2月10日（金） 午後2時～4時
- 2 会場：町田市生涯学習センター（まちだ中央公民館） 6階視聴覚室  
※リモート併催
- 3 配布資料：  
資料1 2022年度の事業  
資料2 2023年度の事業予定

### 4 出席者：【委員】

井上 暁子	委員長	玉蟲 敏子	副委員長	今井 敦	委員
原田 一敏	委員	鈴木 英顕	委員	椿 敏幸	委員
山口 有次	委員	宮原 裕美	委員		
若月 雅裕	委員	伊藤 嘉章	博物館館長		

### 【市・事務局】

職員4名

### 5 議題

#### （1）報告－1 2022年度の事業

##### <資料1>

事務局 展示3件、体験講座8件、大学連携3件、ブース出展1件について報告した。

委員 来場者数の欄に、参加者と見学者を分けて集計している体験講座がある。参加者だけでなく、見学者数も重要な指標となるので、この内訳の出し方はとても良いと思う。他の欄の人数は、同行者や見学者を含む数字なのか、純粹に講座を受けた人数なのか。

事務局 該当する体験講座「吹きガラスに挑戦！」は屋外で実施しており、また講座の特徴からも、体験している様子を見せることを重視している。他の講座は室内で行っており、コロナウイルス感染拡大の影響により、参加者以外の入室を遠慮していただいている。このため、他の講座は見学者がいないということになる。

委員 子どもに付き添った保護者の人数は、参加者の数に含まれているのか。

事務局 保護者の人数は参加者数に含まれている。以前、子どもセンターの方から、保護者自身が参加せずに見ているだけだと、子どもに横から指示を出してしまい、子どもの自由な創造性が育まれないため、保護者にも体験させるようにしてほしいという要望があった。それ以降、親子で参加する体験講座は、保護者自身でも作品を制作していただいている。

委員 親子で参加する体験講座は、組数と人数を分けて明記することも可能か。

- 事務局  
委員 データは記録してあるので可能である。
- 事務局  
委員 1点目、広報について。今回の酒器展では、関連するジャンルの出版社に声をかけるなどして、冊子が多く配布できた点は良かった。ツイッターの使い方について、例えば今回は白洲氏へのインタビューを実施していたが、その際に10秒ぐらいの動画をとっておいて、ツイッターで事前に公開するのはどうか。動画は静止画より広告効果が高く、委員の所属機関でもSNSに投稿する際は、動画を多く活用している。動画を見た人が、インタビューを読みたくて冊子をダウンロードすることが期待できる。
- 事務局  
委員 2点目、体験講座の集客について。すぐ満員になる体験講座もあれば、集客に苦勞する体験講座もあると伺った。子どもだけではなく、成人や工芸経験者に対して、どのように広報を打ち出していくべきか検討する必要がある。町田市立博物館のイベントでは、何を見て申し込みをされる人が多いのか知りたい。
- 事務局  
委員 1点目について。以前の運営委員会でインタビューをするべきと指摘をいただいたため、今回は試行錯誤しながらやってみた。事前にインタビューの写真を広報に載せることはやってみたが、動画という発想はなかった。来年度は動画の掲示も検討したい。
- 事務局  
委員 2点目について。記録は取っているが今手元に資料がないため、詳細は後日改めてデータを提示したい（別紙資料参照）。若い世代はSNSや口コミが強く、対象とする世代によって、広報の方法を変えないといけない。昨年夏には体験講座のチラシを周辺小学校の児童全員配布したが、とても効果が大きかった。
- 事務局  
委員 ターゲットに応じて広報を変えるのは重要である。
- 事務局  
委員 3点目、SNSの写真について。図録用の写真を使うのではなく、それぞれの作品がきれいに見えるアングルで個別に撮影しても良いと思う。そういった写真を掲載すると、ツイッターに変化が出て面白いのではないか。
- 事務局  
委員 今後の参考にしたい。
- 事務局  
委員 今年度も「工芸史」の科目で授業をしていただいた。中学・高校の美術教職課程の27名が参加し、工芸の歴史を学ぶことができたと同時に、町田市がどんな作品を所蔵しているのか知ることができた。大学と博物館の重要な地域連携の在り方だと考える。博物館がこれまでに行っている体験講座や出張展示だけでなく、工芸美術館をアピールするためにも、市民向けの公開講座を開催しても良いのではないか。そのような予定はあるか。
- 事務局  
委員 今のところ予定はない。昨年、博物館館長が町田茶道会の主催で講演を行った際には、多くの来場者があり好評だった。今後も検討していきたい。
- 事務局  
委員 出張展示でもギャラリートークのようなイベントを積極的にしていただくと、博物館や新美術館についての関心も高まっていくと思う。ぜひ検討していただきたい。

議題（２）報告－２ ２０２３年度の事業予定

<資料２>

事務局 ２０２３年の事業予定として、展示３件、体験講座１０件、大学連携１件、ブース出展３件について報告した。

委員 １点目の質問。出張展示の日程は１２日間であるが、これだけの企画をしていて、しかも次年度は展示室Ａ・Ｂの２室を借りるのに、２週間は短いのでは。もっと長くできないか。

２点目の質問。前年度は岩田ガラスの巡回展や五島美術館への貸し出しなど、町田市立博物館の収蔵品を貸し出す展示も行ってた。今後もそのような計画があるか伺いたい。

事務局 出張展示の会期延長について。博物館が借りている国際版画美術館の市民展示室は、本来市民に貸し出すための場所であり、１期間が最長２週間となっている。市の機関が長く借りるのは難しく、どうしても２週間の会期になってしまう。作品貸し出しについて。２０２３年度以降の町田市立博物館所蔵品による貸出展は、現在調整中である。公表できる段階になったら、改めて運営委員会で報告させていただく。

委員 来年度の多摩クラフト展で、「オノマトペ」をテーマに章立てするのが興味深い。オノマトペと言えば漫画の効果音やセリフが連想されるので、漫画の吹き出しのような造作物を置くことで、SNS 映えするスポットや、来場者に写真を撮ってもらう場所を設けると、広報に繋がるのではないかと。また、オノマトペを用いて俳句を詠むイベントなどを企画すれば、より多くの人に広報できるのではないかと。

事務局 大変興味深い提案であり、検討したい。

委員 ほかに、「ゲームさんぽ」というインターネット上の番組があり、専門家の解説を聞きながらゲームをすることで、知識を得ることができるという、ゲーム・エンタメ・文化をつなぐコンテンツとなっている。今後の参考になるのではないかと。

委員 博物館法改正もあり、今後地域の様々な機関との連携が重要になってくると聞いている。学校側から博物館に向かうというのはカリキュラムや予算の関係などでなかなかハードルが高いが、例えばパネル展のようなものであれば、ちょうど学校にも展示スペースがあるので、学校のスペースを利用して開催していただくのも良いと思う。今後博物館は学校との連携も視野に入れているということなので、学校としても連携の在り方を考えていきたい。

委員 ２０２２年度、２３年度ともに興味深い企画が多い。とくに「町田の酒」や「町田の土で皿作り」といった「町田」の名を冠した企画がとても良い。町田にある博物館として、市民の皆様に親近感を持っていただけたらと思う。今後もぜひ「町田」に関する企画をたくさん出していただけたらいい。

小学校への広報について、去年は夏の体験講座のチラシを生徒に行きわたるよう配っていただき、かなりの効果があったと伺っている。夏に限らず、他のイベ

ントについても学校向けに広報していただけると、興味のある生徒が参加すると思う。広報の方法を検討していただけるとありがたい。

事務局

本日いただいたご意見をふまえ、今後の博物館の運営を行っていく。  
これを以て閉会とする。